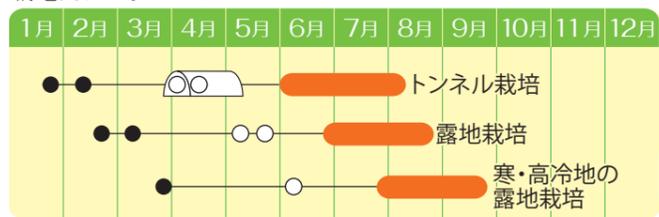


栽培カレンダー



「家の光」2014年12月号  
「家庭園芸」

●種まき ○植えつけ ◡トンネル被覆 ●収穫



トマトは、強い光を好み、病害虫もつきやすいので、日照・通気性のよい畑を選び、排水をよくして育てましょう。根は深く強く張るので、元肥は畝の中心に深く、福ワラや落葉、おがくずなど、堆肥の主原料となる「粗大有機物」を加えていねいに施します。吸肥力が強く、生育初期の窒素肥料の効きすぎは過繁茂、着果不良の原因となりますので注意しましょう。

JA愛知西オリジナルキャラクター「レキ」

7 追肥・中耕

第1回追肥

直径6~7cmまで、第1花房の1番果が肥大した頃、畝の両側に肥料を施す。早く与えすぎると徒長しやすい



第2回追肥

第3花房の果実が直径5cmくらいに肥大した頃、第1回と同量を施す



第3回以降の追肥

生育の様子をみて、半月に1回くらい、化成肥料大さじ2杯を施す

固くなった畝間の土を中耕して、軟らかくしながら土を寄せ上げる

8 病害虫防除



9 収穫

6~7月は開花後約60~70日、8月は40~50日で完熟期に達する

熟した果実をはさみで切り取る



アブラムシ、疫病が大敵  
膨らんだ離層のところを指先で押さえ、尻部を引くと外れる

緑熟期  
運搬容器に積み重ねて入れるときは果枝をさらに短く切り、ほかの果実を傷めないようにする

5 誘引・芽かき・摘芯



芽が伸びるにつれて、3~4葉おきに縛る

芽が太るのに支障がないように、ゆとりをもたせて8の字に縛って誘引する



花房の下は重みがかかるので、かならずしっかり縛る



主茎 摘芯  
わき芽は小さいうちにかき取る

6 人工授粉



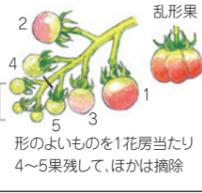
着果ホルモン(トマトーンなど。温度によって使用濃度が異なるので、説明書をよく読んで正しく使用すること)

花房のつぼみが2~3花開花したとき、花房全体にさっとひと噴きする。咲いている花とこれから咲く花5~6花に、着果効果が現れる

ホルモン処理には及ばないが、開花時に毎朝1回、支柱を数回たたいて振動を与え、花粉が出やすくなるのも効果的

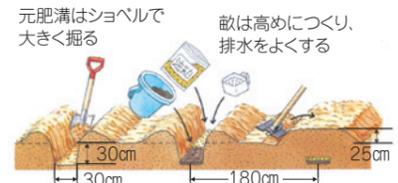
①花房に果実は4~5個に制限する

大玉トマトは、ミニトマトのように多数の花はつけませんが、ふつ々の品種なら下段花房は6~8花、上段花房は10花以上つきます。このままつけておくと、果実が小さくなったり、上段花房の発達に支障をきたしたりするので、通常は1花房当たり4~5果を残して、ほかは摘果します。下図のように咲き順にしたがって摘み、小果やつぼみは摘除します。ただし、1番花は形のくずれたものが多いので、これは取り除き、2~6番花を残すのがよい場合もあります。また、尻腐れ果や乱形果も早めに取り除くようにします。



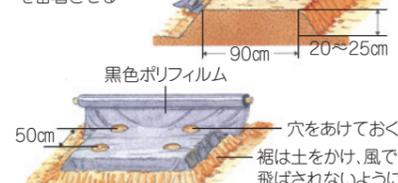
1 元肥入れ

(畝の長さ1m当たり)  
堆肥 7~8握り 油粕 大さじ5杯  
化成肥料 大さじ3~5杯



2 マルチング

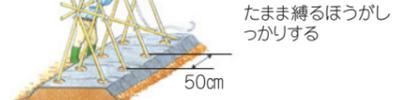
畝面はていねいにならし、フィルムと土面を密着させる



植えつけ2~3日前には完成させ、地温の上昇を図っておくのがよい

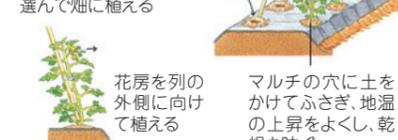
3 支柱立て

植える前に支柱をしっかり立てておく



4 植えつけ

花が1~2花咲き始めた頃、暖かい日を選んで畑に植える



大玉トマト

完熟果の収穫を楽しめる

トマトは栄養の豊かさやリコピンの抗酸化作用など機能が強く、消費支出トップの人気抜群の野菜です。品種はさまざまですが、なんといっても作りこなしたいのは大玉トマトです。育て方が難しい分、成功の暁には喜びも格別です。

地域を守りながら活性化をめざします!

地域の安全・安心を切に願って取組む当JAの地域貢献活動では、JA共済連愛知の「地域・農業活性化活動資金」を活用して、一宮市と稲沢市の両市に様々な物資を寄贈させていただきました。先月号では地域防犯の強化を願って取り組みました救命工具セットや防災倉庫の寄贈をご紹介いたしました。

今回は、子どもたちの交通安全を心から願って取り組みました地域貢献活動と、当JA自己改革「地域の活性化」の実現をめざした「支店を核とした取組み」で、丹陽支店が愛知県下の金融機関で初めて発足いたしました「青色防犯パトロール隊」をご紹介します。



持ち運びに便利なプロジェクトを寄贈! 交通安全を呼びかけ事故の無い町づくりをめざす!

子どもたちに交通安全の大切さを理解してもらおうと、持ち運びに便利なプロジェクトを1台、稲沢市に寄贈いたしました。交通安全を呼びかけるDVDも、当JAが以前寄贈いたしております。



↑横断旗とパトロールベストを披露する見守り隊の皆さん

一宮市の見守り隊を支援!

交通事故から子どもたちを守る!



ベストと横断旗に交通安全への熱い思いを込める新美さん

子どもたちの交通安全を人一倍願う浅野校区長の新美文吉さん。「町内で支え合って見守り隊をより強固なものにし、子どもたちを危険から守りたい」と熱い思いを語られ、事故の無い自慢できる町づくりに尽力されております。

交通安全から子どもたちを守るため、一宮市各小学校区のボランティアの方たちで構成される「見守り隊」を支援しようと、当JAはパトロールベスト420着、横断旗900本を一宮市に寄贈いたしました。10月23日に同市立浅野小学校で行われた寄贈式では、中野正康一宮市長をはじめ、浅野校区見守り隊の皆様が出席され、牛田組合長が中野市長に目録を手渡すと、寄贈した物資を児童たちに披露いたしました。



↑子どもたちの安全を心から願って、中野一宮市長に目録を手渡す牛田組合長(右)



支店運営委員会の皆様とパトロール車両

→犯罪の未然防止を願う、パトロール隊発足の喜びを述べられる支店運営委員会の岩田廣延委員長



パトロールは、丹陽支店職員と支店運営委員会のメンバーが週1回、16時頃から17時頃にかけて丹陽地区を巡回しながら防犯を呼びかけます。

愛知県下の金融機関で初! 青色防犯パトロール隊発足!

丹陽支店の支店運営委員会では、愛知県下の金融機関で初となる「青色防犯パトロール隊」を発足いたしました。

11月21日に丹陽支店で執り行った出発式では、青色回転灯と安全安心を呼びかけるマグネットを貼り付けたパトロール車が、より安全で安心な町づくりに向けて出発いたしました。

共済事業で地域貢献! 青色防犯パトロール隊発足!

○収穫した野菜を産直広場で販売してみませんか? 只今、産直会員募集中! お申し込みは、最寄りの産直広場へ!